GT-R Magazine presents × FUJI SPEEDWAY

R's Meeting 2022

in 富士スピードウェイ

「あるべき姿」に戻れた幸せ

GT-Rファンが一堂に会すことができる機会を作りたい――。
その想いが「R's Meeting」の起源であり、われわれが毎年このイベントを行う最大の目的である。
'20年、'21年のコロナ禍という障壁も乗り越え、今年で13年連続の開催が叶った。
制限なしで全国のGT-R好きが集った。3年ぶりに本来の姿で開催した「R's Meeting」を振り返る

文：野田航也（本誌）　写真：北畠主税／木村博道／小林 健（本誌）／増田貴広（本誌）

☆イベント当日の模様は本誌公式YouTubeチャンネルでも配信中!
bit.ly/2ZZlkvx

出展ブース=90小間

来場者数=7,036人

計4回のトークショーは満員御礼!

Rを知り尽くすゲスト陣も盛り上げてくれた

R32商品主管
伊藤修令氏

R33商品主管
田口 浩氏

R33／R34商品主管
渡邉衡三氏

日産自動車 R35ブランドアンバサダー
田村宏志氏

日産自動車 R35車両開発責任者
川口隆志氏

日産自動車 車両実験部
加藤博義氏

日産自動車 車両実験部
松本孝夫氏

元レーシングドライバー
土屋圭市氏

レーシングドライバー
千代勝正氏

レーシングドライバー
平手晃平氏

モータージャーナリスト
桂 伸一氏

モータージャーナリスト
木下隆之氏

ハコスカレーシングと併走するという奇跡

土屋圭市ドライブで“国さん”を偲ぶ追悼ランを実施

今回のR's Meetingでは'22年3月16日に逝去された高橋国光氏を追悼するため、氏が50連勝を飾ったハコスカレーシング15号車レプリカを先頭にパレードランを実施した

車両を提供してくださった『内田モーターワークス（VICTORY50）』の内田幸輝代表と高橋国光氏を師と仰ぐドリキンこと土屋圭市氏。追悼ランは当日のサプライズ

パレードランの参加車両144台が富士のホームストレートに整列。スタート前には故高橋国光氏を偲び、当日来場したゲスト/参加者/観客/関係者で1分間の黙祷を捧げた

かつて国さんから贈られたヘルメットを被りハコスカのステアリングを握った土屋氏。今まで恐れ多くて一度も被ったことがないという宝物。スタート前に感極まる場面も

イベント広場の愛車撮影会に加え、メイン会場隣のP12を使用して「愛車撮影会Bコース」も実施。車両のみの展示・撮影でイベントをゆっくり観覧できるコンテンツだ

イベント広場やパドックのみならず、富士スピードウェイ内の一般駐車場はどこもGT-Rで溢れかえった! とはいえ、R's MeetingはGT-R以外での来場ももちろん大歓迎

イベント当日の模様はGT-R Magazine公式YouTubeチャンネルでも配信中（P7のQRからアクセスを）。MCはマナPこと鈴木 学氏とお馴染み佐藤 恵さんのご両人！

パレードランのみならず、イベント会場内にはもう一台ハコスカレーシング（15号車）を展示した。こちらは『プリンスガレージかとり』所有のレプリカ車両である

TOMEI POWER
BLITZ
TOPRANK
YOKOHAMA
ARISHOX

GT-Rファンたちの“R愛”が溢れる最高の一日に!

皆さんと一緒に作り上げた唯一無二のイベントです!

13年連続(通算15回目)の開催となった「R'sミーティング 2022」。令和4(2022)年10月30日(日)のイベント当日、会場となる富士スピードウェイ上空は透き通ったような青空が広がり、富士の峰もくっきりとその姿を見せてくれた。長年R'sミーティングを開催してきたが、これほどのイベント日和は過去イチかもしれない。

'20年初頭からの新型コロナウイルス感染症拡大により、同年はイベント初となる無観客開催に。翌'21年も当初は無観客開催を予定しており、開催直前に急遽有観客に変更した経緯がある。イベントに限らず、2年半以上にわたり制約のある生活を強いられてきただけに、少しでも過去最高を記録した'19年のR'sミーティングに近づけたい、否、願わくば元の姿に戻したい。われわれスタッフはそう考えて準備を進めたし、何よりもGT-Rファンの皆さんはそれを望んでいたことだろう。

マスク着用と感染予防対策を必須とすることで有観客開催の目処が立った。愛車撮影会に加え、レーシングコースを使用したパレードランも復活。メイン会場のイベント広場とコース上を再び「GT-R一色」に染めたい。そして参加者、来場者の皆さんが笑顔で一日を楽しんでほしい。そんな思いを抱きながら本番当日を迎えた。

イベント開始の9時前から富士スピードウェイには多くのファンが詰めかけ、イベント広場は早朝から人、人の様相を呈していた。メインステージのトークショーは今までで最も多い4回実施したが、ステージ上から眺める会場は15時のイベント終了まで活気に溢れていた。

今年の来場者数は「7036人」。過去最高を記録した'19年の7162人には僅かに届かなかったが、肌感ではこれまでで最も盛り上がったという印象だ。イベント恒例の集合写真(本ページ上)も復活。撮影時のみ「声を出さずにマスクを外す」というお願いに皆さん快く応じてくださり、「静かに」飛びっきりの笑顔を見せてくれた。

今年のイベントでは日本を代表するレジェンドドライバーの故・高橋国光氏を追悼することもテーマとした。幼いころから国さんを敬愛し、レーシングドライバーになることを決意した土屋圭市氏を3年ぶりに特別ゲストに迎え、かつて国さんがステアリングを握り「GT-R 50勝」を記録した15号車のハコスカレーシングを2台用意。パレードランに土屋氏ドライブのハコスカが加わることは当日のサプライズとしたが、参加者のみならず、グランドスタンドやコース各所から観覧していた方々もきっと驚かれたであろう。

「いつかGT-RマガジンのR'sミーティングで、国さんと一緒にランデブー走行ができたら最高だね」

土屋氏は3年前にそう語っていたが、残念ながら実現できなかった。しかし、イベント後にお会いした際、「あの日は国さんが絶対に富士のどこかにいたと思うよ。イベントに呼んでくれて本当にありがとう」と土屋氏。その言葉は心に深く染み入った。たくさんのファンと共に「GT-Rの神様」に想いを馳せることができた。R'sミーティングを開催してきて本当によかったと実感した。同時に、これからも途絶えることなく続けていこうと心に誓った。